

UAE エネルギー・インフラ省と「日 UAE 水技術シンポジウム」を開催

～ 日本の水関連技術が UAE の水不足問題解決に貢献 ～

2024-05-02

一般財団法人 中東協力センター

中東協力センターは 2024 年 4 月 17 日、UAE の水問題の解決に協力することを目的として、「日 UAE 水技術シンポジウム」を UAE エネルギー・インフラ省（MOEI）と共催しました。このアブダビでのイベントには、UAE のエネルギー・インフラ省、環境庁（EAD）、ハリーフア大学、ドバイ電気水道局（DEWA）、エティハド水電力（EWE）から 14 名の関係者が参加しました。

冒頭、MOEI の Ahmed Alkaabi 次官補より開会の挨拶を受け、また MOEI、ハリーフア大学等から組織構成と活動状況の紹介を受けました。



シンポジウムでの議論①



シンポジウムでの議論②

UAE の水問題について

UAE 側からは、水不足の深刻さや海水淡水化におけるエネルギー消費量の削減のための技術開発の必要性が説明されました。特に農業用の水不足問題、低い食料自給率、地下水の枯渇と塩濃度上昇、脱塩プロセスにおける高塩濃度廃水（ブライン水）の対策について、日本の技術への期待が示されました。

UAE における研究開発について

ハリーフア大学からは、数値流体力学による水処理のモデリングやグラフェン等の新素材を利用した膜技術、ブライン水からのリチウム等のレアメタル回収といった基礎研究から、海水淡水化の前処理や排水処理といった実証試験の経験についても発表されました。MOEI は、R&D 事業への支援を計画しており、日本企業と UAE 研究機関と連携した共同 R&D 事業への期待を表明しました。

日本企業 4 社によるプレゼンテーション

日本側からは、「東レ株式会社（RO 膜、UF 膜、NM 膜等）」「東洋紡エムシー株式会社（RO 膜、BC 膜）」「株式会社明電舎（セラミック平膜）」「株式会社西島製作所（ポンプ）」の 4 社より各社の事業内容についてプレゼンテーションを行い、膜技術や海水淡水化プロセスへ適用されるポンプの特性と可能性について、また今後のビジネスについての議論が活発に交わされました。議論が時間内で収まらなかったため、個別の議論

が今後、行われることとなりました。



シンポジウムでの議論③



シンポジウム後の撮影

最後に、経済産業省三宅中東アフリカ課長から本シンポジウム開催について感謝の言葉が述べられ、また MOEI の Ahmed Alkaabi 次官補からも日本の関係機関や企業、そして当センターの協力に対する感謝が伝えられました。

当センターは引き続き、MOEI をはじめとする UAE の関係機関と UAE の水問題解決に向けて連携し、日本企業の活動を支援します。

###